

# おきなわ



作品名:「ぼくらの未来…!」(平成24年度かりゆし美術展 写真の部 銅賞)  
 撮影者:松田一良さん(宜野湾市)

## 目次

- ② 特集「障害のある人もない人も共に暮らしやすい社会を目指して」
- ④ 年頭あいさつ、芸能チャリティ公演
- ⑤ 県共同募金会寄付者芳名
- ⑥ 教育支援資金のご案内
- ⑦ シリーズ活動最前線  
「大里グリーンタウン自治会介護事業部」
- ⑧ 災害ボラセン応援担当職員研修
- ⑨ 高齢者虐待対応研修会
- ⑩ 予対協 県知事へ福祉施策の充実等 要望
- ⑪ 第56回沖縄県社会福祉大会
- ⑫ 全国ねんりんピック ゲートボール全国優勝
- ⑬ 平成26年度かりゆし長寿大学校 学生募集
- ⑭ 福祉の職場説明・面接会
- ⑮ 介護の日講演会・保育士修学資金貸付事業
- ⑯ インフォメーション、寄付者芳名 他

🍷 広報紙「福祉情報おきなわ」の作成経費の一部に共同募金配分金を充てております。

# 特集

## 障害のある人もない人も

### 共に暮らしやすい社会を目指して

昨年10月、障害を理由とする差別等の解消に向けた「沖縄県障害のある人もない人も共に暮らしやすい社会づくり条例」(以下「条例」)が成立した。障害の有無に関わらず全ての人の尊厳が守られる社会づくりへの第一歩として、障害当事者や福祉関係者の期待も大きい。本号では条例制定までの経緯やポイントについて紹介する。

#### 条例制定に向けて

今回の条例制定にいたるまでには、約5年半にわたる障害当事者や関係者による粘り強い運動と努力の成果があった。

千葉県で全国初となる障害者差別をなくすための条例が成立したのが、平成18年。国に先駆けて障害者や家族が作り上げた条例は、関係者から大きく評価された。

その翌年、沖縄県内においても障害者が自らの権利や自立生活、社会との関係について学ぼうと勉強会がスタートした。その中で条例制定の必要性が確認され、翌年の平成20年3月に



▲うちなーTRYで条例への賛同を呼びかける関係者(平成22年5月)

障害当事者とその支援者で組織される「障害のある人もない人もいのち輝く条例づくりの会」(以下「条例づくりの会」)が発足した。条例づくりの会では、県内各地で障害者から虐待や差別に関する聞き取りを行ったほか、県民集会や「うちなーTRY」と称した署名運動を

県内各地で展開し、条例の趣旨への賛同を呼びかけた。障害当事者とその支持者が一丸となって取り組んだ運動は、多くの県民の共感を呼び、平成23年1月には、条例制定を求める3万人余りの署名が県知事へ提出された。

#### 念願の条例 ついに成立

これを受け、県では同年7月に「沖縄県障害のある人もない人も暮らしやすい地域づくり県民会議」を発足させ、条例づくりへの動きが本格化した。県では、県民会議と共催し、県内5地区でのタウンミーティングの開催やパブリックコメントを募集・検証するなど、福祉保健部を中心に議論を重ね、障害者や関係者と一緒になって条例案を練り上げていった。

条例案の策定の大詰め段階では、前文の取扱いについても議論された。一旦は県の素案から前文が削除さ



▲条例制定を求める県民大集会には500名が詰めかけた(平成23年1月)

れたたものの、条例づくりの会が復活を強く要望し、県がこれを受け入れて前文が成案に盛り込まれることとなった。

こうして障害当事者と県が共に進めてきた条例づくりは、昨年10月11日の県議会において全会一致で可決・成立によって結実した。

当日は、県庁前で多くの関係者が詰めかけ、条例成立を祝福した。

障害者への差別を禁止する主旨の条例は、都道府県段階では全国6番目となる。

#### 条例のポイント

条例の特徴の一つに、策定段階から大切にしてきた基本理念を記した前文が含まれている点が挙げられる。前文では、福祉分野に限らず、医療、雇用、教育等の各分野における施策の充実、障害者への差別の解消が盛り込まれたほか、離島及びへき地における厳しい生活条件等にも言及するなど沖縄ならではの事情も反映している。

また、条例案では「何人も、障害のある人に対して、障害を理由とする差別やその他の権利を侵害する行為をしてはならない」と明記し、障害者に対する社会的障壁の除去に向けた配慮を義務付け、虐待の禁止を定めた。

この他にも条例の特徴として、次のポイントがあげられる。

○障害を理由とする差別を禁止し、差別を解消するための具体策が盛り込まれている。

○雇用の拡大や駐車場の確保、住宅環境の整備、障害者同

士による相談体制の充実等が盛り込まれている。

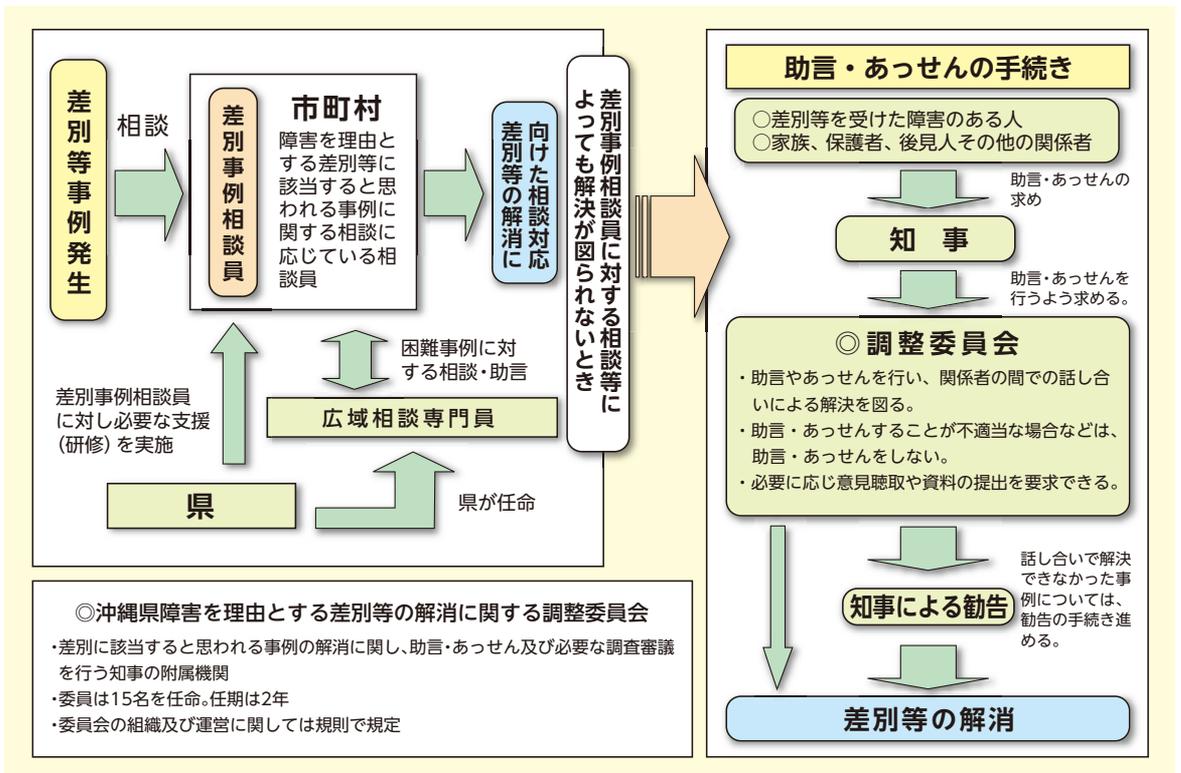
○教育面に関しても、障害のある児童や生徒、保護者への十分な情報提供と、意向の尊重を明記している。

○差別と思われる事例があった時の対応として、県は市町村の相談員への助言や広域相談専門員を配置する。

○条例の施行状況を検討し、3年をめどに必要な見直しを行う。

### 障害を理由とする差別等を解消するための支援

条例では、障害を理由とする差別の禁止を定めると同時に、差別等を解消するための支援の仕組みが盛り込まれた。障害を理由とする差別等に該当すると思われる事例が発生した際は、各市町村に配置される「差別事例相談員」が差別等の解消に向けた相談対応にあたることとなっている。また、困難事例に対しては、県が障害保健福祉圏域ごとに配置する「広域相談専門員」が相談・助言を行うほか、県



は差別事例相談員に対する必要な研修等を実施することが定められている。また、差別事例相談員による対応で解決が図られない

い場合には、「障害を理由とする差別等の解消に関する調整委員会」に持ち込まれ、委員会の助言やあつせんによる関係者間での話し合い

による解決を図るとしている。この「調整委員会」は県知事の附属機関として設置され、任命される15名の委員の中には、障害のある人またはその家族をはじめ、社会福祉事業経営者の代表等が含まれることとなっている。

### 施行に向けて

条例の施行を今年4月に控え、条例づくりの会事務局の早坂佳之氏は「条例の制定はあくまでスタート地点。これからどれだけ多くの人に条例の内容を理解してもらうかが重要」と指摘する。

厚生労働省の調査では、障害者虐待防止法の施行からの1年間で、家族からの暴行や暴言、年金の使い込みといった虐待を受けたとする自治体への通報が県内で34件あったことが分かった。沖縄県自立生活センターの代表の長位鈴子氏は、「これはまだまだ水山の一角。もっと現実を知つ

てほしい」と訴える。差別の解消には、県民一人ひとりが条例をよく理解し、差別に該当するか否かの「物差し」を心に持ち、行動に移すことが重要となる。

早坂氏は「条例の内容を理解するには、自分の生活に置き換えて考えてみる大切。障害のある人もない人もお互いが支え合える存在になるため、そのエンパワメントの手段として条例が活かされたい」と話した。



▲県庁前で条例制定を祝う(平成25年10月)

条例は、県障害保健福祉課ホームページで閲覧可能。検索サイトで「沖縄県障害者条例」で検索。

# 新年のごあいさつ



社会福祉法人 沖縄県社会福祉協議会  
社会福祉法人 沖縄県共同募金会  
会長 新垣雄久

新年あけましておめでとうございます。

皆様におかれましては、つつがなく新しい年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

さて、社会構造の変化に加え、経済の低迷や厳しい雇用環境も相まって、社会的孤立や生活困窮者の増加が深刻な社会問題となっています。

一方、本県においてもこれまで家庭や地域が有していた子育てや介護等の相互扶助機能が減退しつつあり、孤立や虐待、権利侵害といった従来の制度では対応が難しい福祉課題も広がりを見せております。

このような中、私たち社会福祉関係者が目指すのは、誰もが安全・安心にいきいきと暮らせる社会であ

り、その実現には、地域社会を構成する住民や自治会、民生委員、NPO、企業等の多様な担い手と連携して取り組む姿勢が求められております。

沖縄県社協におきましても第3次沖縄県社協21プランに掲げる「共に支え合う福祉社会」の実現に向け、関係団体等との協働を進め、事業の推進に全力を傾注してまいります。

年の初めにあたり、県民の皆様のみならずの御健勝と御多幸をお祈り申し上げますとともに、地域福祉を進めるうえで貴重な財源であります「赤い羽根共同募金」をはじめ、社会福祉に対する尚一層の御理解と御協力をお願い申し上げます。新年のごあいさつといたします。

平成26年元旦

## 第16回芸能チャリティー公演

県社協では、11月2日、那覇市民会館において「社会福祉活動資金づくり第16回芸能チャリティー公演」を開催した。



▲華やかな幕開け

は、八重山民謡界の重鎮である山里勇吉氏が企画し、県内の伝統舞踊・日本舞踊、器楽等の先生方の社会貢献活動の一環として準備から出演に至るまでボランティアで協力しているもので、平成7年から開催されている。

今年には30団体400人余りが出演し、バラエティー豊かなプログラムのもと昼・夜2回公演で行われ、会場は600名近い観客で賑わった。

これまでの収益金は総額2,200万円余りに上り、チャリティー実行委員会を

## 第40回芸能の夕べ案内

県社協では、「社会福祉活動資金づくり第40回芸能の夕べ」を次のとおり開催する。チケット・内容等に関する問い合わせにつきましては、県社協総務企画部まで。

### ▽日時

2月2日(日)  
午後5時00分開場  
午後5時30分開演

### ▽場所

沖縄コンベンションセンター  
ター劇場棟

### ▽入場料

1枚 1,500円

### ▽問い合わせ先(電話)

098(887)2000

### ▽出演

沖縄新進芸能家協会  
西川流沖縄県支部  
生田流箏曲沖縄筑紫会  
都山流尺八楽会沖縄県支部



▲多彩なプログラムで観客を魅了

通じて県社協へ全額が寄付され、県内の社会福祉活動資金として活用されている。

### お礼

第16回芸能チャリティー公演にご協力いただきました出演団体はじめ関係者の皆様、そして来場いただきました皆様へ紙面をお借りしてお礼申し上げます。



## ■歳末たすけあい募金



●ガジマル保育園 様



●沖縄県ボウリング場協会 様  
(写真はチャリティー大会の様子)



●沖縄県洋菓子協会 様



●オキコ(株)・沖縄明治乳業(株) 様

## ■共同募金



●沖縄県歯科医師会 様



●沖縄県農林水産団体共済会 様

●沖縄県医師会 様



赤い羽根共同募金

# 寄付者芳名

(10月1日～12月5日)



ご寄付ありがとうございます



「自分の募金が、住んでいる町で、どんな風に使われているの?」そんな声をよく聞きます。共同募金は、地域福祉活動やボランティア支援活動への助成として使われていますが、自分の住んでいる町でどんな風に?をわかりやすく紹介しているのがウェブサイト「はねっと」です。自分の募金が住んでいる町でどう使われているのか

「自分が募金したお金って何に使われているの?」



<http://hanett.akaihane.or.jp/hanett/pub/home.do>

ウェブサイトをぜひご覧ください。「こんなところで!」嬉しい発見があるはずですよ。

## 大雨災害の義援金を送金しました

去る7月と8月の大雨で島根、山口、秋田、岩手の4県は甚大な被害を受け、本県において支援を呼び掛けたところ、心温まる多額の浄財をお寄せいただきました。

この義援金は、それぞれで構成する配分委員会で取りまとめ、同委員会の決定により被災対象地域に配分される予定です。

送金の報告とともに、皆様のご協力に対し厚くお礼申し上げます。ありがとうございました。

### ●島根県・山口県平成25年7月28日大雨災害

送金先	金額
島根県共同募金会	396,716円
山口県共同募金会	396,718円
合計	793,434円

### ●秋田県・岩手県平成25年大雨災害

送金先	金額
秋田県共同募金会	317,817円
岩手県共同募金会	317,817円
合計	635,634円

共同募金への寄附金は「所得税控除」を「所得控除」「税額控除」から選択出来ます!

	申告に必要なもの
所得控除	・沖縄県共同募金会が発行した領収証
税額控除	・沖縄県共同募金会が発行した領収証 ・税額控除に係る証明書の写し

### 問合わせ先

沖縄県共同募金会 TEL 098-882-4353  
ホームページ <http://www.okishakyo.or.jp/kyoubo/>



# 生活福祉資金貸付制度(教育支援資金)のご案内

県社協(民生部)では、他の貸付制度の利用が困難な低所得世帯へ、学校教育法に規定する高等学校(中等教育学校の後期課程、盲学校、ろう学校または特別支援学校の高等部及び専修学校の高等課程を含む)、大学(短期大学および専門学校(専修学校専門課程)の専門課程を含む)、または高等専門学校に入学・就学するときに必要な費用を貸し付けています。この貸付制度を利用するにあたっての相談と申し込みの窓口は、お住まいの市町村社会福祉協議会です。

## 資金の種類と内容

	教育支援費	就学支度費
資金の種類	対象となる学校へ就学するために必要な経費 (授業料・テキスト代など)	対象となる学校へ入学するために必要な経費 (入学金など)
貸付限度額	高等学校 月額35,000円以内 高等専門学校 月額60,000円以内 短期大学 月額60,000円以内 (専修学校専門課程を含む) 大学 月額65,000円以内	500,000円以内
償還期限	据置期間経過後20年以内	
貸付利子	無利子 *ただし、償還期限内に償還できない場合は、10.75%の延滞利子が加算されます。	



## 【申し込みから返済までの流れ】

- ① お住まいの市町村社会福祉協議会(社協)へ借入の相談をします。  
\*世帯状況を詳しく聞かせていただいて、制度の要件に該当するか確認します。
- ② 申込書や住民票、所得証明書など必要書類をそろえます。
- ③ 書類がすべてそろったら、民生委員と借入について面談します。
- ④ 市町村社協から県社協へ申請書類一式が届きます。
- ⑤ 県社協で審査を行います。
- ⑥ 審査の結果、貸付が決定した場合には、市町村社協に決定通知と借用書が届きます。
- ⑦ 市町村社協にて借用書の作成を行います。
- ⑧ 借受人の口座へ送金します。
- ⑨ 卒業年次まで借入しているときは、毎年1回、送金します。
- ⑩ 卒業後、6か月後に返済が始まります。



④～⑧までに、概ね1か月ほど期間を要します。

\*進学後、在学証明書を提出していただきます。

## 【ご利用にあたって】

- 貸付の対象となる世帯は、沖縄県内にお住いの低所得世帯です。お住まいの市町村や世帯の状況(人数など)によって所得額の条件が異なりますので、地元の市町村社会福祉協議会へお問い合わせください。
- 母子寡婦福祉資金の修学資金や日本学生支援機構奨学金、沖縄振興開発金融公庫の教育資金など、他の貸付制度が優先されます。
- 資金を利用する方(学校に通う方)が借受人になり、世帯の生計中心者が連帯借受人になっていただきます。
- この制度は世帯の生活の自立と安定を図ることを目的としていることから、相談・申し込みから償還が終了するまで、お住まいの地域を担当する民生委員が相談や支援にあたります。
- 貸付には審査を行います。審査結果によっては、資金の貸付ができない場合があります。
- 詳しくは、地元の市町村社会福祉協議会へご相談ください。

地域をつなぐ憩いの場  
「大里グリーンタウン自治会  
介護予防部（南城市）」

大里グリーンタウン自治会（仲程清和会長）では、介護予防部を設置し、地域に暮らす65歳以上の高齢者を対象としたミニデイサービズ（ミニデイ）を実施している。

毎週水曜日、公民館は利用者の笑顔があふれる憩いの場となる。運営にあたるのは介護予防部（後浜絹江部長）に所属する地域のボランティアの皆さん。おそろいのワークの良さがうかがえる。

ミニデイの運営費は市からの助成金と自治会予算でまかなわれている。公民館でのミニデイは県内各地で行われているが、自治会が自主運営するケースは珍しい。

介護予防部では4つの班があり、週替わりでプログラムを企画・運営している。取材に訪れた日は、講師を招いての「介護予防民踊教室」があり、民謡のリズムに合わせたレクダンスで身体を動かした。バラエティ豊かな企画が行える背景には、福祉レクの勉強会等毎週実施するなどボランティアの意識や関心の高さがある。



▲リズムに合わせて楽しく体を動かす利用者とボランティアの皆さん

大里グリーンタウンは70年代に入居が開始されたかつての新興住宅地で、近年では住民の高齢化が課題の一つとなっている。こうした中、介護予防部の活動は高齢者の健康づくりはもとより、老人会や子ども会と連携を図ることで地域活性化の原動力となっている。これら住民一丸となった取り組みが評価され、昨年、県主催の「第1回チャージャーがんじゅう地域大賞」で優秀賞に輝いた。

インタビューで、ミニデイ利用者の島袋金一さん（80歳）は「ミニデイの日が待ち遠しいです」と答え、他の利用者もそれぞれボランティアへの感謝を口にした。また、これからの取り組みについて後浜さんは「新しい利用者やボランティアを呼び込みながら活動を続けていきたい」と語ってくれた。

全社協 保育所のためのしせつの損害補償

<http://www.fukushihoken.co.jp>

ふくしの保険 検索 保険料試算ができます

有利な補償と割安な保険料です

加入対象は、社協の会員である社会福祉法人等が運営している認可保育所です。

プラン1 保育所業務のための補償

- ①基本補償
- オプション1 訪問・相談等サービス補償
- ②個人情報漏えい対応補償
- ③保育所の什器・備品損害補償

必要な補償を3つのプランでご用意しました

プラン2 保育所利用者のための補償

- ②園児の傷害事故補償
- ③園児送迎車搭乗中の傷害事故補償

プラン3 保育所職員のための補償

- ①保育所の労災上乗せ補償
- ②保育所職員の傷害事故補償
- ③保育所職員の感染症罹患事故補償

プラン1-①		補償額	年額保険料	
賠償事故に対応	対人賠償(1名・1事故)	1億・7億円	園児1~50人	17,300~22,700円
	対物賠償(1事故)	1,000万円	園児51~100人	23,900~29,300円
	受託・管理財物賠償(期間中)	200万円	園児101人~150人	30,500~35,300円
	うち 現金補償限度額(期間中)	20万円	加入例	
	人格権侵害(期間中)	1,000万円	園児50人	保険料22,700円
お買得! 見舞い費用	初期対応費用(期間中)	500万円	園児100人	保険料29,300円
	見舞費用(期間中)	10万円		

プラン2-②	補償額(1口あたり)	年間保険料	
死亡保険金	103万円	1名/1口あたり	530円
後遺障害保険金	程度に応じて死亡保険金額の3~100%	加入例(1口加入)	
入院保険金(1日あたり)	800円	園児60人	31,800円
手術保険金	8,000円・16,000円・32,000円	園児80人	42,400円
通院保険金(1日あたり)	500円	園児100人	53,000円

●この保険は全国社会福祉協議会が保険会社と一括して契約を行う団体契約(「賠償責任保険」「普通傷害保険」「労働災害総合保険」「約定履行費用保険」「不動産総合保険」)です。

●このご案内は概要を説明したものです。詳しい内容のお問合せは下記にお願いします。

団体契約者  
社会福祉法人  
**全国社会福祉協議会**  
(引受幹事保険会社) 株式会社 損害保険ジャパン

取扱代理店  
株式会社 **福祉保険サービス**  
〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F  
TEL:03(3581)4667 FAX:03(3581)4763

## 県内社協災害時相互応援協定に基づき 災害ボランティアセンター応援担当職員の資質向上を図る

県社協では、11月25日、「災害ボランティアセンター応援担当職員研修会」を開催した。

昨年6月に締結した「県内社協災害時相互応援協定」では、被災地社協への迅速な支援活動とその体制整備を進めるため、第12条において被災地の災害ボランティアセンターの立ち上げから運営までを支援する応援担当職員の配置が定められている。

研修には県社協と市町村社協に配置された応援担当職員ら49名が参加し、災害ボランティアセンターの意



▲研修会開会の様子

義と役割に関する基本的な知識を身に付けるとともに、災害ボランティアセンターの運営者としてのスキルアップを図った。

今回は、コミュニケーション・エンパワメント・オフィスFEEL DO（フィールド）の協力により研修が進められ、初めに同代表の桑原英文氏より「災害時の社協の果たす役割と災害ボランティアセンター」と題して講義があった。講義では、災害時の支援活動の基本は、「被災者一人ひとりの「くらし全体」を考えた生活再建を目指すことであり、日頃から住民の生活支援に取り組んでいる社協には、災害時も同じ役割が求められることなどが説明された。

また、演習では「災害救援活動を行うかどうかの判断に必要な被害状況・ニーズをどうキャッチするか」というテーマのもと、FEEL DOの篠原辰二氏



▲演習では活発な議論が交わされた。

と菅原清香氏の進行によりグループワークを行った。発災後、住民の被害状況を「誰から」、「どのような方法で」集めるのか、集まった情報を「組織内でどのようにして共有するのか」などについて各グループで活発な議論が交わされた。

研修参加者からは「災害を想定して、平時から取り決めておかなければならないことがあることを実感した」、「災害への取組みについては、応援担当職員だけでなく、管理職や連絡窓口担当者も共に考えなければならぬ」といった声も聞かれた。この他、応援協定を形骸化させないためにも、定期的に協定について話し合うことや「職員への研修の場

## 沖縄県生命保険協会 福祉巡回車、AED、足踏み型シーラー贈る

12月10日、県総合福祉センターにて、沖縄県生命保険協会による福祉巡回車等の寄贈式が行われ、福祉巡回車、福祉物品（AED）及び障害者支援団体への足踏み型シーラーが寄贈された。

福祉巡回車の寄贈を受けた座間味村社協では、無料移送サービスや介護予防事業などを行っており、今回贈られた車両を活用して各種サービスの充実を図ることとしている。

また、AED（自動体外式除細動器）の寄贈を受けが必要だ」という意見も多数寄せられており、県社協では研修会の定期的な開催と市町村社協事務局長会議などを通じて議論を深めていく方針としている。

「県内社協災害時相互応援協定」に基づく応援担当職員は、現在41市町村社協に61名、県社協に12名が配置され、県社協は毎年4月に応援担当職員名簿を取りまとめ、市町村社協及び地区社連へ通知することとなっている。



▲寄贈を受けた社協・団体の関係者と県生命保険協会の村上嘉紀会長（右から3人目）

た宮古島市社協と北谷町社協では、社協の利用者だけではなく近隣施設等にAEDの配備を周知することで、地域住民の安心に役立つものと期待される。鶴生の叢、たんぼぼ福祉作業所及びアダナスの3つの障害者支援団体へは、加工食品等の袋詰めを使用する足踏み型シーラーが贈られた。

同協会による寄贈は累計で、福祉巡回車41台（平成4年〜）、AED7台、障害者支援団体への寄贈は16団体（平成20年〜）となっており、県内の多くの施設・団体に活用されている。

# 虐待対応ツールシヤルワークと担当者の心がまえ

## 高齢者虐待対応担当実務研修会(初任者)

県社協では、10月23日、県総合福祉センターにおいて、「高齢者虐待対応担当実務研修会(初任者)」を開催した。この研修会は、高齢者虐待対応担当者としての心がまえとスキルの向上を目的に実施するもの。

講師に石川和徳氏(石川和徳社会福祉士事務所)を招き、市町村高齢者虐待防止担当職員、市町村地域包括支援センター職員等49名が参加した。

講義では、高齢者虐待担当者として意識しておきたいことや、対応の全体像を把握する方法について学んだ。石川氏は、「支援方法に不安を感じている方も多



▲講師の石川和徳氏

い。自身の中で、虐待防止の基本理念など考えの「軸」を持つことが重要」と強調したうえで、「対応フロー図等を活用しながら判断に迷いを無くしていく一方で、慎重に対応していくことが大事」と助言した。

後半のグループ演習では、限られた時間内で初期対応を行うイメージをつけることを目的に、高齢者虐待対応帳票」の活用方法を学んだ。参加者は、提示された事例から得られた情報をもとに、その対応方法や解決策に向けて多くの意見を挙げていた。

演習の中で石川氏は、「帳票を活用することで課題・目標を明確にすることができ、支援者の情報も把握しやすくなる。そして、支援計画が立てやすくなり、具体的な支援の方向性が見えてくるようになる」とアドバイスした。さらに、「通報を受けてからの限られた情報と時間の中で、どれだけ目標・課題を明確にし、行動できるの

## 「地域ケア会議」を考える

～九州ブロック地域包括・在宅介護支援センター協議会セミナーINおきなわ～

11月14日、15日の両日、那覇市において、「平成25年度九州ブロック地域包括・在宅介護支援センター協議会セミナー」(主催・九州ブロック地域包括・在宅介護支援センター協議会、県社協等)が開催された。

同セミナーは、地域ケア会議の開催を通して、多職種連携による地域のネットワークづくりについて考えることを目的としたもので、九州各県の地域包括支援センター、在宅介護支援センター、

初期段階の支援が重要だ」と指摘した。参加者からは、「コアメンバー会議のようで、他の機関からの視点もあり、気がたぐささんあった」、「高齢者虐待ケースの計画の立て方、対応方法が詳しく分かった。今、対応している虐待ケースをもう一度見直そうと思った」等の今後の高齢者虐待対応に生かす前向きな感想が多く寄

ター職員等約270名が参加した。

セミナー1日目は、地域包括ケアシステムや地域ケア会議に関する行政説明(厚労省老健局・地域包括ケア推進官 岡島さおり氏)、基調報告(全国各地域包括・在宅介護支援センター協議会・会長 青木佳之氏)、講演(立川市南部西ふじみ地域包括支援センター・センター長 山本繁樹氏)が行われた。

また、セミナー2日目は、「地域ケア会議とネットワーク」と題し、シンポジウムが行われた。

シンポジウムでは、山本氏をコーディネーターに、せられた。



▲グループ演習を行う参加者

2日間を通し、地域ケア会議は、「高齢者個人に対する支援の充実と、それを支える社会基盤の整備とを同時に進めていく、地域包括ケアシステムの実現に向けたツール」であり、会議自体を目的化しないことが重要であるということや、地域の実情に合わせた多様な開催方法があるということを学ぶ機会となった。



▲行政説明を行う岡島さおり氏

# 社会福祉施策の充実と予算の拡充を求める

県社会福祉施策・予算対策協議会25項目の要望書を県知事へ提出

沖縄県社会福祉施策・予算対策協議会（予対協）の代表団10名は、9月10日、県庁に川上好久副知事を訪ね、「平成26年度県福祉施策・予算に対する要望書」を手渡した。

予対協は県内493の民間社会福祉施設・団体で構成される組織で、県社協に事務局を置いている。種別ごとに8つの部会で構成され、社会福祉施策の充実と予算確保に向けた運動を行うことを目的としている。

手交式の冒頭、予対協の新垣雄久会長は「今日的な福祉課題への対応には、福祉計画を基盤に、県民参加



▲川上好久副知事へ要望書を手渡す新垣雄久予対協会長

## 県福祉施策及び予算に対する要望事項 (新規案件のみ)

- 1 沖縄県総合福祉センターの駐車場確保について（全部会共通）
- 2 就労移行支援事業の利用期間の延長について（心身障害部会）
- 3 療養介護事業所における病院等への外泊時費用補完制度創設について（身体障害部会）
- 4 児童養護施設等支援事業に代わる施策の創設について（児童養護部会）
- 5 里親専門相談員の全施設への配置について（同）
- 6 島外・県外への進学及び就職、アフターケアに係る交通費の支給について（保育部会）
- 7 待機児童対策における保育所の分園の推進と予算の確保について（同）
- 8 一括交付金を活用した保育士補助職員の配置について（同）

の促進と福祉従事者の確保と資質向上を図ることが不可欠。全ての案件について要望が達成されるよう、最大限の協力をお願いしたい」とあいさつし、県知事の代理で対応した川上副知事へ全25項目の要望書を提出した。

今回、新たに施策関連5件、予算関連3件の計8件が新規項目として要望に盛り込まれた（左欄参照）。

このうち、全部会共通として要望した「沖縄県総合福祉センターの駐車場確保について」は、センターの



▲総合福祉センターに隣接する県有地

## 石嶺福祉センター線 開通

### 浦添・西原方面へのアクセス向上

この度、県総合福祉センター前から国際センター入口前の県道241号線を連結する、「石嶺福祉センター線」が開通した。12月3日には、関係者や地域住

民等が出席しての開通式が催され、念願の道路開通を祝った。

これまで、浦添、西原方面から県総合福祉センターへ車で乗り入れる際は、道幅の狭い住宅地の道路を通らねばならず、交通量の増加に伴い、周辺地域の交通渋滞の原因となっていた。

適切な管理運営を図るため、県管財課が管理する用地をセンター専用駐車場として指定管理者（県社協）へ管理移管するよう求める内容となっている。

代表団から要望事項の説明を受けた川上副知事は、「県では『強い経済。やさしい社会』を振興計画の目標に位置付けている。その実現に向け、今回いただいた要望については貴重な意見として一つ一つ点検し、関係部局とも協議しながら適切に対応させていただきたい」とコメントした。

予対協では10月に県内の全市町村長及び市町村議会に対しても要望書を提出し、市町村における福祉施策の充実及び予算確保について要望している。



▲開通した石嶺福祉センター線（国際センター入口方面から撮影）

「つながる心で広げる福祉、  
みんなで高める地域の力」



258人、43団体に  
表彰状・感謝状を授与

10月17日、沖縄コンベンションセンターにて「第56回沖縄県社会福祉大会」(主催・県、県社協、県共募)が開催され、県内の福祉関係者約1300人が参加した。  
大会式典では、長年にわたり県内の社会福祉の発展に貢献された方々への表彰が行われ、県知事表彰では43人・9団体へ、大会長表

## 大会宣言

私たちの住む地域では、少子高齢化の進行や単身世帯の増加といった社会経済環境の変化を背景に、高齢者、障害者等への権利侵害や社会的孤立が広がりを見せるなど、既存の制度やサービスだけでは解決が困難な福祉課題が顕在化しています。

とりわけ、全国的に経済的困窮者の増加が顕著となっており、政府では生活保護制度の改正と併せて、自立支援策の強化を図る包括的な相談支援体制を柱とする新たな生活困窮者支援に取り組むこととしています。

また、沖縄県においては、「沖縄21世紀ビジョン基本計画」に掲げる「心豊かで、安全・安心に暮らせる島」の実現に向け、介護や子育て支援、地域における自立生活支援等の諸施策を総合的に推進しています。

こうした中、私たち社会福祉関係者には、相互連携を基調とし、既存の枠にとどまらない新たなサービスの創出に努めるとともに、住民やNPO等との協働を図りながら、地域における福祉課題を受け止め、解決していく姿勢が求められています。

本日、「つながる心で広げる福祉、みんなで高める地域の力」のスローガンのもと、県内の社会福祉関係者が一堂に会し、誰もが住み慣れた地域で自立した生活を送れるよう、一丸となって取り組む決意を新たにしました。

私たちは総力を結集し、県民一人ひとりが支え合う豊かな福祉社会の実現に向け行動することを誓い、ここに宣言します。

平成25年10月17日  
第56回沖縄県社会福祉大会



▲表彰の様子

彰では215人、34団体に  
対し、表彰状・感謝状が授  
与された。また、厚生労働  
大臣表彰として、東日本大

震災の被災者支援に貢献した「沖縄萩の会(在沖宮城県人会)」「戸袋勝行代表」へ県知事より感謝状を伝達した。  
受賞者を代表して県知事顕彰(民生委員功労)を受賞した伊江村民生委員児童委員協議会会長の内間初枝氏が、「多くの方々を支えてきました。」「と謝辞を述べた。その後、県議会の浦崎唯昭副議長より祝辞があったほか、県民へアピールする大会宣言が満場一致で大会宣言が採択された。



### 記念講演

藤原茂氏

〈心が動けば、身体は動く〉

後半の記念講演では社会福祉法人夢のみずうみ村理事長の藤原茂氏が「いき・き・る支援」と題して講演



▲伊江村民児協 内間初枝氏による受賞者代表あいさつ



▲記念講演を行う藤原茂氏

を行った。  
講演の冒頭で藤原氏は、東日本大震災の被災地である岩手県大槌町に建設した支援施設「子ども夢ハウス おおつち」について触れ、苦境に立たされたながらも必死で暮らしている被災地の現状と子どもたちへのケアの必要性を訴えた。  
また、自ら実践してきたリハビリテーションの事例を元に、機能回復のみにこだわらぬ「リハビリ漬け」から脱却し、利用者の心を動かすことで身体を動かしてもらおうと呼びかけた。そのうえで、介護職員には過度なケアで利用者の主体性や自主性を奪ってしまったという専門性が求められると強調した。



第26回全国健康福祉祭こうち大会  
**ねんりんピックよちい高知2013**  
 長寿の輪 龍馬の里で ゆめ交流

## 沖縄県から86人の選手団を派遣 G.B.の浦添グリーンズ、見事**全国優勝**

「ねんりんピック」の愛称で親しまれている「全国健康福祉祭」が10月26日から29日にかけて高知県高知市を中心に開催され18市町で24種目のスポーツ・文化交流大会や美術展等が行われた。大会には全国から約8000人の選手・役員



▲選手団結団式（10/25、那覇空港）

等が集まり、ねんりんピックの期間中、延べ40万人の参加者があった。沖縄県からは15種目86人の選手団を派遣した。また、美術展には日本画・洋画等6部門に、昨年度の第4回沖縄かりゆし美術展の受賞作品の中から12点を出品した。

### 【総合開会式（26日）】

高知県立春野総合運動公園で、26日に行われた総合開会式の入場行進は南から順に行い、沖縄県選手団は先頭を切って入場行進を行い、弓道競技選手の吉長幸弘さんが旗手を務めた。選手は紫のデンファレの花束（JAおきなわ花卉部からの寄贈）を掲げ、南国沖縄をアピールした。

▲寄贈のデンファレを手に先頭で行進する沖縄県選手団（総合開会式）



### 【交流大会（27～29日）】

天気恵まれた3日間、選手達は高知県内各地に移動して熱戦を繰り広げた。主な結果は次のとおり。

#### ◆ゲートボール交流大会◆

浦添グリーンズは予選を3勝0敗、2日目の決勝トーナメントを勝ち抜き、見事全国優勝を勝ち取りました。

参加164チーム、予選を含む9試合という大変過酷な日程であるにも



▲ゲートボールで、見事全国優勝を果たした浦添グリーンズの皆さん

かかわらず、日頃の鍛錬の成果を十分に発揮した内容であった。

#### ◆弓道交流大会◆

沖縄県チームは、予選を40射中20射の成績で決勝トーナメントに進んだ。2回戦で今大会優勝の石川県に惜しくも1射の差で敗れたものの、8強に入り優秀賞を獲得した。



▲弓道で優秀賞に輝いた沖縄県チームの皆さん

#### ◆優勝報告◆

##### 浦添グリーンズ

後日、ゲートボールの選手の皆さんは県社協の新垣会長を訪れ、優勝報告を行った。

選手談話「台風の影響が心配だったが参加できてよかった。出発前から『優勝』を目標にしていたので達成できて嬉しく思う。試合毎にチームの結束力が高まったことが優勝につながった。また開催地である土佐清水市の歓迎は素晴らしく、大変元気づけられた。今後も多く選手とかかわりながら、精進していきたい」



▲会長に優勝報告をする選手の皆さん（11/26、県社協役員室にて）

# 平成26年度(第24期) 沖縄県かりゆし長寿大学校学生募集

〔募集内容〕

●修学年数

1学年制(平成26年4月から平成27年3月まで)

(※各学科の募集人員64名中、10名は市町村社協からの地域推薦枠とする。)

原則として週1回(火曜日または木曜日)午前10時～午後3時(4時間)

●応募資格

①県内に居住し、平成26年4月1日以前に満60歳に達している者

学 科	募集人員		合 計
	火曜日コース	木曜日コース	
地域文化学科	32名	32名	64名
健康福祉学科	32名	32名	64名
生活環境学科	32名	32名	64名
合 計	96名	96名	192名



▲かりゆし長寿大学校 講義風景

②健康で地域活動を行う意欲があり、全期間通じて受講できる者

③本校卒業生は除く

●受講料

年間・1万5000円

※事務手続き等に係る諸経費、学習に係る教材費、その他課外活動等に係る諸経費については、別途自己負担となります。(25年度クラブ活動費負担額1万7000円～3万円)

●募集期間

2月3日(月)～

2月25日(火)まで

●問合せ

県社協いきいき長寿センター  
098(887)1344

## かりゆし長寿大学校卒業生 ボランティア・地域活動 交流会 (糸満市)

県社協・いきいき長寿センターでは、11月21日、糸満市ボランティア地域活動交流会を糸満市社協



▲ボランティア活動について説明する大城ゆかり氏

と共催で開催した。当日は18人の卒業生が集まった。初めに、糸満市社協のボランティアコーディネーター大城ゆかり氏より「糸満市のボランティア活動事例について」の話があり、糸満市でボランティア登録している人の年齢層は下は小学生から上は90歳と幅の広い年齢層の方々が協力して地域を支えていることが説明された。次に、実際にボランティア活動を行っている「オジサンクラブ」からの活動内容についての報告があった。参加者にとっては活動体験を生で聴けるのはとても貴重な体験となった。



▲レクリエーションで交流を図る参加者

その後、ボランティアについてのディスカッションが行われ、最後はレクリエーションゲームで卒業生同士の交流を図った。県社協では、今後も各市町村社協と協力し、卒業生と地域との連携を進めていく。

## 楽しいのしい運動会

県社協・いきいき長寿センターでは、11月9日、県総合運動公園(レクリエーションドーム)において、「第22回沖縄県かりゆし長寿大学校大運動会」を開催した。第23期生186名は、「青春」を身体いっぱい表現し、ドームは笑いと声援であふれかえった。

火曜コース生活環境学科の垣花富夫さんは、「大運動会は、皆の出番があった点と、各学科の創意工夫した応援団等が後押しし、一層盛り上がった。50～60年振りの青春と感性で健康長寿への希望が見えてきた大運動会でした」との感想を話した。



▲選手宣誓で健闘を誓う



▲真剣に説明を聞く求職者

県社協では、11月23日に県総合福祉センターで「福祉の職場説明・面接会」を開催した。この面接会は、

**福祉の職場説明・面接会**

**福祉人材の確保に期待!!**

**福祉の職場説明・面接会(第1回)開催**

県社協・福祉人材研修センターでは、福祉の職場説明・面接会の一環として、求人事業所を対象とした「社会福祉施設等福祉人材確保セミナー」及び求職者を対象とした「就職応援セミナー」を開催した。

**就職応援セミナー**

求職者と求人事業所との直接面談する機会を提供することで相互の求職・求人活動を支援することがねらい。今年度第1回目となる面接会は、児童分野特化型(保育士限定)として開催し、法人37ヶ所及び求職者31名(一般16名・学生15名)が参加した。

求職者の中には、積極的に各ブースへ足を運び、就職活動に真剣に取り組み姿が見られ、その場で採用即決のチャンスをつかむ求職者もいた。各種相談コーナーでは、ハローワークや沖縄県キャリアセンターによる求職等相談、福祉人材研修センター職員による求職相談・登録、職場体験の申込受付を行った。

面接会では求職者を対象に就職応援セミナーとして、とまと社労士オフィスの所長(社会保険労務士・キャリアコンサルタント)の名城志奈氏から、「面接会の歩き方や面接でのアピール方法等について」と

**社会福祉施設等福祉人材確保セミナー**

10月25日に県総合福祉センターで開催した「社会福祉施設等福祉人材確保セミナー」は、社会福祉施設・事業所のPR力や採用力を高め、採用活動を促進していくために必要なスキルを習得することで、質の高い福祉人材を安定的に確保していくことを目的としたもの。県内の社会福祉施設の人事・採用を担当する職員等110名が参加した。講師には、



▲福祉人材の確保・定着について説明する名城志奈氏

題してセミナーを行った。その中で、面接会での目標を声に出し、明確にしたうえで臨むことや、求人資料等がない情報を得る必要性や方法等が伝えられた。

とまと社労士オフィスの所長で社会保険労務士・キャリアコンサルタントの名城志奈氏を招き、「自法人の魅力等を伝える採用活動」を選ばれる法人とは」と題して講義を行った。

セミナーでは、求人の際、どのような質問を投げかけて採用していくか、具体的な採用活動や人材の育成・定着のあり方について説明がなされた。また、人材育成に関する助成金の情報提供も行われた。

参加者からは、「基本的かつ本質的なことを学べて、すごく満足した。このようなセミナーに多くの方が参加することで、県全体の福祉人材確保につながる」と感じた」の声が寄せられた。

今年度の説明・面接会は3回開催を予定(2回目は12月に開催済み)。



**第3回**  
福祉・介護・保育(総合)  
日時: 2月1日(土)  
13時~17時  
(受付13時~)  
会場: 県総合福祉センター  
【お問合せ先】  
県福祉人材研修センター  
☎098(882)5703

**介護支援専門員実務研修  
受講試験 233名が合格!**

10月13日に「第16回介護支援専門員実務研修受講試験」が全国一斉に実施された。沖縄県内では、2,234名が受験、合格者は233名で合格率は約10.4%であった。

合格者は2月7~9日及び3月14~16日に実施する実務研修を修了した後、名簿に登録することで介護支援専門員として活動することができる。

# 待機児童解消へ向けて!!

## 「保育士修学資金貸付事業」を新たに開始

県社協・福祉人材研修センターでは、保育士を目指す学生に対し修学資金を貸付け、修学を容易にすることで質の高い保育士の養成確保を目的とした「保育士修学資金貸付事業」を実施する。

対象者は、沖縄キリスト教短期大学、沖縄女子短期大学、沖縄福祉保育専門学校、ソーシャルワーク専門学校(以下「養成施設」)へ通う学生(平成25年度入学者)で、養成施設を卒業後、県内で5年間保育職に従事することで、修学資金の返還が免除となる。

平成25年4月現在、県内の待機児童数は2216人に上り、潜在的待機児童を含めると9000人程度いるといわれている。待機児童の解消に向けては、受け皿となる保育所の整備や保育士の人材確保が急務となっている。

新たにスタートする貸付事業は、県内の待機児童の解消に向けた取り組みの一環で、県で実施している総合的な保育士・保育

表1. 平成24年度の保育士採用状況

県社協における全求人件数(新規求人のみ)	1,409件
保育士求人件数(採用0人の求人件数)	245件(147件)
①募集人数	898人
②採用人数	217人
募集に対する採用の割合(②/①×100)	24.2%

所支援事業の一つに位置付けられる。

昨年度、県社協における保育所の保育士求人件数は245件で、募集人数は898人となっており、1件当たり3.7人を募集していた(表1)。これに対して、採用人数は217人で、募集人数に対する採用人数の割合は約24%と低い結果にとどまった。一方、採用がなかった求人件数は147件と半数以上を占めており、待機児童解消に向けた人材の確保が困難な状況にあったことが分かる。

今後、県社協ではこの事業を通して養成施設と連

# 「介護の日」講演会

## 若年認知症家族の思い、地域サポートと共に

県社協介護実習・普及センターでは、11月20日、浦添市でだこホールにおいて、『介護の日』講演会を開催した。これは、若年認知症の方やその家族への地域支援の充実を図ることを目的に開催したもので、福祉・医療関係者をはじめ福祉や介護を学ぶ学生など500名余が参加した。



▲熱心に耳を傾ける参加者

講演に先立ち、県高齢者福祉介護課主任の海野高志氏が「沖縄県における認知症支援」と題した行政説明を行った。その中で海野氏は、認知症になっても住み慣れた地域で暮らすことができるよう、認知症サポートの養成や認知症の人への対応の心得等について理解と協力を求めた。

講演会では、講師に、東京・北海道を中心に地域で活動を展開する干場功氏を迎え、「若年認知症家族の思い、地域サポートと共に」と題し、長年にわたって妻を介護した体験等に基づく講演をいただいた。

若年認知症家族会・彩星(ほし)の会で顧問を務める干場氏は、「若年認知症は、まず家庭より職場で分かる場合が多く、診断がつくまでに時間がかかることが多い。診断後も社会的な受け皿が少なく、高齢者の認知症と違い社会的な役割をどう担ってもらうか考えなければならぬ」と指摘。介護生活での不安に対しては、「十人十



▲講師の干場功氏

色の対応が必要だ」と強調した。

そして、「家族や本人にとっては、診断が終わりはなく、そこから新たな暮らしの始まりである」と訴えた。

認知症の方を支えるには、その人が暮らす地域や周囲が理解し支えることが大事であると説いたうえで、「どんなにいいネットワークが出来上がっても、それを動かすのはやはり人間。人と人とのつながりや連携は、動いてこそやがてお互いの信頼となり、成長し大きな力となる。」と呼び掛けた。

介護に関する相談、福祉用具の展示紹介は、沖縄県介護実習・普及センターまで

098(882)1484

「第4回がじゆし地域福祉実践セミナー」

2月5日、県総合福祉センターで開催

県社協では2月5日、「第4回がじゆし地域福祉実践セミナー(地域の福祉力を高めるセミナー)」地域に根差した地域包括支援体制づくり」を開催する。(共催：かりゆし地域福祉実践セミナー実行委員会、沖縄県地域福祉学会)

このセミナーは、公的な社会資源である医療や福祉の地域支援に関する取組みと、地域住民による支え合い等のインフォーマルな取り組みを通して、相互連携の可能性を探り、地域に根差した地域包括支援体制づくりについて考えることを目的に実施するもの。

- 日時：2月5日(水)10時～16時(9時半受付)
- 会場：県総合福祉センター東棟1階ゆいホール
- 参加対象：どなたでも参加可能
- 参加費：会員1000円、非会員2000円、学生500円
- ※会員とは県社協の会員を

指します。

- 申込方法：本会ホームページから申込用紙をダウンロードし、FAXにてお申込みください。
- 問合せ先：県社協・地域福祉部 098(887)2000

寄付・寄贈者芳名  
(10月1日～11月30日)

ご寄付いただき、誠にありがとうございました。

- 大田直也様
- 比嘉義隆様
- (株)サンレー様
- (公財)沖縄県農林水産団体共済会様
- 沖縄生麺協同組合様
- (株)琉球銀行様

～社会福祉ライブラリーから本の紹介～

『くじけないで』



著者 柴田 トヨ  
発行 飛鳥新社  
出版年月 2010年3月  
定価 1,000円(税込)

「人生いつだってこれから だれにも朝はかならずやってくる」  
98歳の詩人、柴田トヨさんがつむぎ出すみずみずしい言葉の数々。  
今回紹介する『くじけないで』では、産経新聞「朝の詩(うた)」に掲載された35点と、下野新聞に掲載された3作品や未発表4作品の計42作品が収録されています。

2013年11月16日に上映開始された映画【くじけないで】の原作本。  
「誰かに紹介したい!」、「ずっと心に寄り添ってくれる!」など反響の大きいオススの1冊です。

※この図書は社会福祉ライブラリーで貸出しています。

編集後記

特集記事の条例の目指す社会の実現には、私たち一人ひとりの行動が求められます。まずは、相手への思いや

※本会への寄付については税制上の優遇措置が受けられます。詳しくは県社協・総務企画部まで。



●一般社団法人沖縄県電気管工事業会青年部様



●学校法人湘央学園浦添看護学校様

- JTB協定旅館ホテル連盟沖縄支部・JTBレキオス会様
- 國和会様

作品名「ぼくらの未来...!」



撮影者：松田一良さん

表紙の写真

松田一良さん(70歳)は、かりゆし長寿大学第19期の卒業生で、選択科目で写真を専攻したことを機にカメラを手にするようになった。写真のモデルは孫の優真(ゆうま)くん(撮影時2才)。横に開いた新聞記事に視線を向ける様子が実にユーモラスな一枚は、初出展となったかりゆし美術展で見事、銅賞に輝いた。

「長寿大学校で交友関係が広がった」と話す松田さんは、「今後もサークルや個人で写真を楽しみたい」と抱負を語った。

りや優しさの心を持つことを大事にしたいと思えます。

(伊良善)